

環境活動レポート

2017 年度

対象期間 2017.4.1～2018.3.31



株式会社かつお技術研究所

発行日 2018 年 7 月 31 日

目次

・株式会社かつお技術研究所 環境基本方針	3
・事業の概要	4
・KGK・EA21 組織図	5
・環境数値目標（2017～2019 年度）	6
・環境活動計画（2017 年度）	7
・環境目標・環境活動計画（2017 年度 単年計画）	8
・環境活動の実績値（2015～2017 年度）	9
・環境への取組実績評価（2015～2017 年度）	10
・2017 年度活動内容の紹介	11
・環境活動計画(2018 年度)	12
・環境関連法規等の順守状況	13
・代表者による評価と見直し	14

株式会社かつお技術研究所 環境基本方針

【基本理念】

私たちは、「贅を余すことなく大切に活かし切るための技術開発」による
低炭素・資源循環型社会の実現へ貢献する技術開発型工場として、
地球環境との調和に努めます。

【基本方針】

1. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、環境リスクの的確な把握と継続的な低減に努めます。
2. 環境関連法規、条例、協定及びその他の要求事項について、法順守を徹底すると共に、自主的な管理基準を設定し、改善に努めます。
3. 持続可能な社会の実現のため、省資源、省エネルギーはもとより、カツオ資源を高度活用した生産活動に取り組むと共に、環境貢献・配慮型の製品・技術開発を推進します。
4. 近隣住民、行政との積極的なコミュニケーションを通じて地域社会との連携と協働に努めます。
5. 環境に関する教育訓練、啓発活動を行い、次世代につなげる感性豊かな環境マインドの向上に努めます。

尚、この基本方針は、組織で働く人または組織のために働く全ての人に周知し、社内外からの要求にも必要に応じ公表します。

制定 2003年 10月 1日

改定 2017年 7月 1日（改定8版）

代表取締役社長

杉山 康生

事業の概要

1.事業所名及び代表者名

株式会社 かつお技術研究所
代表取締役社長 杉山 康生

2.所在地

静岡県焼津市惣右衛門 1320-1

3.環境管理の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 園田 忍
事務局 小杉 直揮
川上 優
連絡先 電話:054-624-0108
FAX:054-625-2008

4.事業の内容

水産加工品の研究開発、製造及び販売

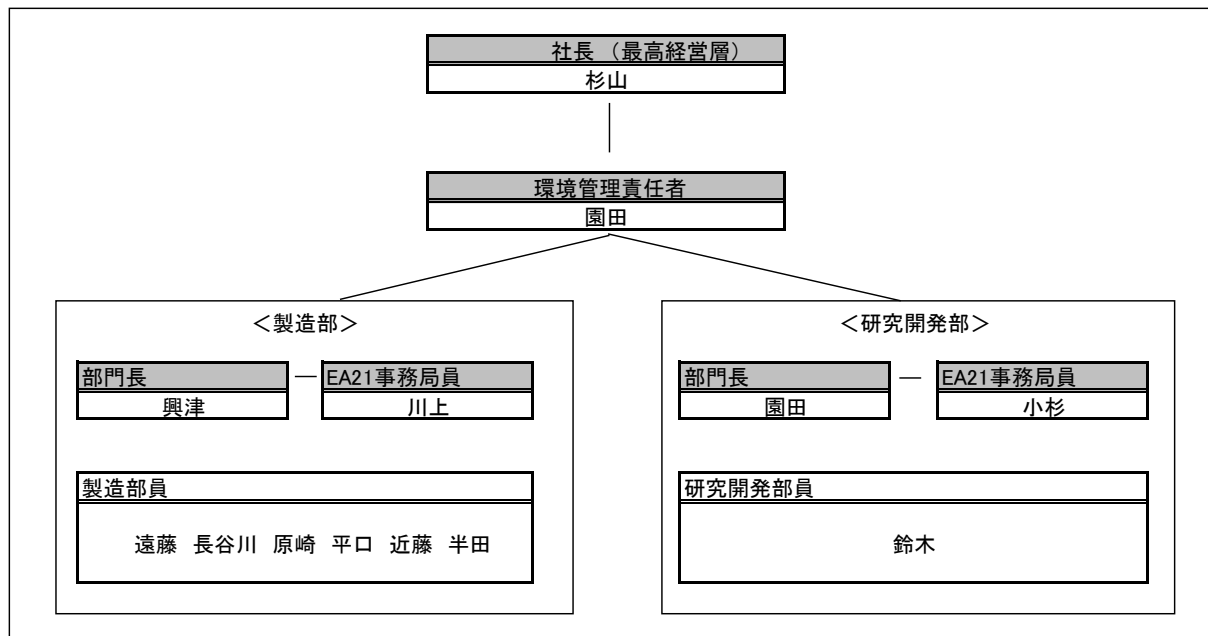
5.事業規模

資本金	5,000 万円
法人設立	1997 年 5 月 1 日
従業員数	11 名
敷地面積	960.8m ²
建物床面積	584.6m ²

6.会社沿革

1997 年 5 月 味の素(株)、(株)柳屋本店の共同出資により設立。
1998 年 1 月 食品工場設立。鰹エキスの製造開始。
2007 年 2 月 味の素(株)、(株)柳屋本店、ヤマキ(株)の共同出資会社となる。

KGK・EA21 組織図



社長	<ul style="list-style-type: none"> ①環境管理責任者、及び EA21 事務局員を任命し、各人にその役割、責任及び権限を与える。 ②人的、技術的、組織のインフラストラクチャ、資金などの資源を適正配分する。 ③環境方針の制定、見直しを行う。 ④環境管理責任者からの、環境活動の実績に関わる報告を受けて、目的及び目標、実施計画、及びシステム全体の変更の必要性について判断し、環境管理責任者に変更の指示をする。 (マネジメントレビュー)
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ①EA21 運用のシステムを確立し、実施し、維持することを確実にする。 ②EA21 運用に関わる文書、記録類を承認する。 ③必要に応じて事務局会を召集する。 ④教育(1回/3ヶ月)を実施する。 ⑤環境に関する情報、改善への提案をまとめ、マネジメントレビューで報告する。 ⑥環境レポートを作成する。
事務局員	<ul style="list-style-type: none"> ①環境負荷の継続的な低減及び環境保全活動を推進する。 ②EA21 に関わる文書、記録類を作成、改訂する。 ③実施計画のスケジュールに沿って、担当部門の運用を実施する。 ④部内ミーティング(1回/月)の進行をし、実施計画の進捗状況を把握する。 ⑤事務局会(1回/3ヶ月)の進行をし、実施計画の年間の進捗状況を確認する。 ⑥教育(1回/3ヶ月)を実施する。
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ①環境に関連した作業を実施する課員の力量を評価する。 ②担当部門の「運用管理ルール」に基づく記録の承認をする。 ③部内ミーティング(1回/月)にて、実施計画の進捗状況を把握する。

環境数値目標（2017～2019年度）

・以下の項目はユーティリティ削減検討項目の数値目標です。

項目	単位	基準	目標		
		2016年	2017年	2018年	2019年
電気使用原単位	kWh/t	237.5	233.5	229.5	225.7
(CO2排出量原単位)	kg-CO2/t	122.6	120.5	118.4	116.5
ガス使用原単位	m ³ /t	280.8	276.0	271.2	266.7
(CO2排出量原単位)	kg-CO2/t	627.7	617.0	606.3	596.2
給水量原単位	m ³ /t	25.7	25.3	24.9	24.5
排水量原単位	m ³ /t	24.2	23.8	23.4	23.0
汚泥排出量原単位	kg/t	182.2	199.0	205.5	19年生産量に基づき想定量を設定
化学物質使用量					
洗浄用洗剤	kg	96	16年度実績維持		
洗濯用洗剤	kg	37	16年度実績維持		
ゴミ資源化率	%	99.4	99%維持		
グリーン購入	%	26.9 (*)	26%以上維持		

* 14～16年度実績の平均値

※購入電力のCO2排出係数：0.516(kg-CO2/kwh)（中部電力㈱ H25年度使用）

※ガスのCO2排出係数：0.0499(kg-CO2/kwh)、単位発熱量 44.8(MJ/Nm3)

（環境省「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」）

※ユーティリティ管理・維持項目に関しては定期的に数値の確認を行い、管理を行う項目のため数値目標は設定しません。

※「自らが生産・販売・購入した製品及びサービスに関する環境目標」に関しては、弊社の事業そのものに該当するため、EA21取組み目標設定対象から除外します。

環境活動計画(2017年度)

【目標設定項目について】

以下の項目は環境負荷が大きい為、ユーティリティ削減検討項目として取り組みました。

- ・電気使用原単位
- ・ガス使用原単位
- ・給水量原単位
- ・排水量原単位

以下の項目は以下の理由でEAガイドライン(P.25～26)に記される通り、ユーティリティ管理・維持項目としました。

- ・汚泥排出量原単位

弊社より発生する汚泥は、製造工程において使用される濾過助剤(珪藻土)に由来します。これらの使用量は品種毎に定められていることから、汚泥排出量の抑制に難点があります。こうした汚泥は肥料として100%リサイクルされております。

- ・化学物質量

使用量が少なく、環境による負荷が低いので、保管管理を徹底して参りました。

- ・ゴミ資源化率

高い数値で維持されており、この水準の維持に努めました。

- ・グリーン購入

弊社のグリーン購入は主に事務用品が該当しますが、資材購入の際に可能な範囲で購入を推進し、維持・管理を徹底して参りました。

【具体的な環境活動】

ユーティリティ削減検討項目

- ① 濃縮機の洗浄改善 (→ 給排水量とガス量の削減へ)
- ② 濃縮機のドレン雨水化と有効利用化推進 (→ 排水量とガス量の削減へ)
- ③ 2tタンク冷却放流水の雨水化 (→ 排水量の削減へ)

ユーティリティ管理・維持項目

定期的に数値を確認しました。数値に異常が確認された場合、原因を特定し改善を行いました。

環境目標・環境活動計画（2017年度 単年計画）

EA21文書	環境目標・環境活動計画(2017年度 単年計画)	2017/4/21作成 事務局
--------	--------------------------	--------------------

目的	2017年度目標	実行計画	責任者	2017年												2018年			コメント欄																							
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																											
ユーティリティ削減検討	①濃縮缶洗浄改善	・濃縮缶洗浄データの精査と改善削減手段の絞り込み（上期） ・現行改善の調査と投資改善方針決定（下期）	興津 (平口)																																							
	②濃縮ドレインの雨水化と有効利用化推進	・発生濃縮ドレイン量の調査と改善効果見極め（上期） ・雨水化及び再利用実行計画作成（下期）	川上 (遠藤)																																							
	③2tタンク冷却放流水の雨水化	・実態調査（上期） ・雨水化実行計画作成（下期）	立石 *1 (長谷川)																																							
※目標値に関しては下表参照																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標単位数</th> <th>単位</th> <th>2016年 (14年)</th> <th>2017年 (15年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水量</td> <td>m³/t</td> <td>25.75</td> <td>25.31</td> </tr> <tr> <td>排水量</td> <td>m³/t</td> <td>24.22</td> <td>23.80</td> </tr> <tr> <td>電気使用量</td> <td>Kwh/t</td> <td>237.55</td> <td>233.51</td> </tr> <tr> <td>ガス使用量</td> <td>m³/t</td> <td>280.78</td> <td>279.01</td> </tr> <tr> <td>削減比率：vs2016年度原単位</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.7%</td> </tr> </tbody> </table>		目標単位数	単位	2016年 (14年)	2017年 (15年)	給水量	m ³ /t	25.75	25.31	排水量	m ³ /t	24.22	23.80	電気使用量	Kwh/t	237.55	233.51	ガス使用量	m ³ /t	280.78	279.01	削減比率：vs2016年度原単位	-	-	1.7%																	
目標単位数	単位	2016年 (14年)	2017年 (15年)																																							
給水量	m ³ /t	25.75	25.31																																							
排水量	m ³ /t	24.22	23.80																																							
電気使用量	Kwh/t	237.55	233.51																																							
ガス使用量	m ³ /t	280.78	279.01																																							
削減比率：vs2016年度原単位	-	-	1.7%																																							

目的	2017年度維持・管理項目																												
維持・管理	<p>下記を維持・管理項目と設定し、定期的（3か月毎）に数値を確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚泥排出量（興津） ・化学物質量（立石 *2） ・ゴミ資源化率（原崎） ・グリーン購入（鈴木、興津） <p>※維持値に関しては下表参照</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016年 (14年)</th> <th>2017年 (15年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚泥排出量 (kg/t)</td> <td>182.2</td> <td>199.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">化学物質使用量 (t)</td> <td>洗剤洗剤用洗剤 (kg)</td> <td>96</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>洗剤洗剤用洗剤 (kg)</td> <td>37</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>苛性 (t)</td> <td>6.54</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>塩酸 (t)</td> <td>7.84</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>硝酸 (t)</td> <td>0.86</td> <td>現状維持</td> </tr> <tr> <td>ゴミ資源化率 (%)</td> <td>99.4</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>グリーン購入 (%)</td> <td>26.4</td> <td>現状維持</td> </tr> </tbody> </table>		2016年 (14年)	2017年 (15年)	汚泥排出量 (kg/t)	182.2	199.0	化学物質使用量 (t)	洗剤洗剤用洗剤 (kg)	96	現状維持	洗剤洗剤用洗剤 (kg)	37	現状維持	苛性 (t)	6.54	現状維持	塩酸 (t)	7.84	現状維持	硝酸 (t)	0.86	現状維持	ゴミ資源化率 (%)	99.4	99.0	グリーン購入 (%)	26.4	現状維持
	2016年 (14年)	2017年 (15年)																											
汚泥排出量 (kg/t)	182.2	199.0																											
化学物質使用量 (t)	洗剤洗剤用洗剤 (kg)	96	現状維持																										
	洗剤洗剤用洗剤 (kg)	37	現状維持																										
	苛性 (t)	6.54	現状維持																										
	塩酸 (t)	7.84	現状維持																										
	硝酸 (t)	0.86	現状維持																										
ゴミ資源化率 (%)	99.4	99.0																											
グリーン購入 (%)	26.4	現状維持																											

*1 異動のため長谷川・近藤が担当(9月～)。
*2 異動のため遠藤が担当(9月～)。

※()内は数値確認担当者

<p>4～9月の原単位は、電気 202.1kWh（目標に対し -13.5%）、ガス 231.2m³/t（-16.2%）、給水 21.5m³/t（-14.9%）、排水 21.7m³/t（-8.7%）、汚泥 184.6kg/t（-7.2%）であり、目標を達していた。ゴミ資源化率（99.6%）、グリーン購入（29.0%）に洗剤使用量（洗浄用 83.75 kg, 洗濯用 24.30 kg）に関しても目標を維持している。但し、洗浄用洗剤については半年で目標の85%以上を占めており、使用量または計量方法の改善が必要。</p>	<p>3か年計画の初年であり、将来的な使用量削減に向け現状把握を実施した。電気・ガスに関しては年度目標・前年度実績とともに達成しており良好な結果。一方で、給排水は年度目標・前年度実績を上回っているため、詳細な原因説明が必須。</p>
--	--

環境活動の実績値(2015～2017 年度)

環境活動の実績値は下表のようになりました。

給排水量については、目標数値に到達しませんでした。

原因としては、17年下期に発生した濃縮機トラブルに伴う給水増加、
受水槽のバルブ劣化による水漏れが挙げられます(いずれも対処済み)。

環境負荷項目	単位		2015年度	2016年度	2017年度
電気使用原単位	kWh/t	目標	222	218	234
		実績	220	238	210
(CO2排出量原単位)	kg-CO2/t	目標	115	112	120
		実績	113	123	108
評価			○	×	○
ガス使用原単位	m ³ /t	目標	231	227	276
		実績	244	281	258
(CO2排出量原単位)	kg-CO2/t	目標	516	507	617
		実績	546	628	577
評価			×	×	○
給水量原単位	m ³ /t	目標	19.1	18.9	25.3
		実績	19.4	25.7	26.2
評価			×	×	×
排水量原単位	m ³ /t	目標	19.0	18.9	23.8
		実績	20.8	24.2	24.1
評価			×	×	×
汚泥排出量原単位	kg/t	目標			199
		実績	121	182	193
評価					○
ゴミ資源化率	%	目標			99.0
		実績	99.3	99.4	99.3
評価					○
洗剤使用量(洗浄用)	kg/年	目標			96
		実績	171	96	165
洗剤使用量(洗濯用)	kg/年	目標			37
		実績	18	37	33
評価					×
グリーン購入	%	目標			26.0
		実績	25.9	27.5	28.8
評価					○

※評価欄は目標達成=○、目標未達成=×

※購入電力のCO2排出係数:0.516(kg-CO2/kwh)(中部電力㈱ H25年度使用)

※ガスのCO2排出係数:0.0499(kg-CO2/kwh)、単位発熱量44.8(MJ/Nm3)

(環境省「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」)

※弊社から排出される汚泥は肥料として100%リサイクルされています。

※グリーン購入は、事務用品を対象としているため年間使用量が少なく、目標は前年通りです。

※食品廃棄物については定常的な発生がないため取り組みの対象としておりません。

環境への取組実施評価(2015～2017年度)

1.電気使用原単位

2017年度の電気使用原単位は、2016年度に比べ12%減少しました。この要因としては原料の回収方法の改善によって初期濃度を高めたり、濃縮前の中間品を予熱したりすることで、濃縮工程を効率的に行えるようになったことが考えられます。



2.ガス使用原単位

2017年度のガス使用原単位は、2016年度に比べ8%減少しました。この原因としては、上記の電気使用量の場合と同様に、作業改善の取り組みによって濃縮工程が効率化されたことが考えられます。



3.給排水量原単位

2017年度の給水原単位は、2016年度に比べ2%増加しました。排水量原単位に関しては2016年度に比べ0.4%減少しました。

当初考えられた原因には、下期に発生した濃縮機トラブルやそれに伴う試運転の影響がありましたが、のちに受水槽での水漏れが見つかっており、後者が使用量増加の主要因であったと考えられます。当該箇所は工事対応済みであり、再発防止のため日々モニタリングをしております。



2017 年度 活動内容の紹介

緊急事態訓練

排水設備の異常で工場排水が排水ピットから溢れた場合、河川に流入し、水質悪化を招く可能性があります。したがって、上記のような有事の発生した場合に適正な処置ができるよう訓練を実施しました。実際の訓練の中で、①対応マニュアルがわかりづらい、②器具が対象箇所より離れた位置に置かれているといった課題が挙げられました。緊急時に的確かつ迅速に対処できるよう、①についてはマニュアルをよりわかりやすいものに改訂し、②については近傍に器具庫を設置する等の改善を行いました。



排水設備異常時に使用する器具を保管

工場改善事例

・ 2tタンク冷却水の雨水化

製品を製造する過程で、水を使用し中間品を冷却する工程があります。これまで、こうした冷却水は排水として処理されておりましたが、この排水量の削減を目標とし17年度より雨水化の検討を進めてまいりました。取り組みの結果、冷却水の性状に異常がないことが確かめられましたので、雨水として流せるよう配管工事を実施いたしました。この取り組みによる排水削減量は年間 約 146m³ と見込まれます。



冷却水は雨水として流れる

環境活動計画(2018 年度)

【目標設定項目について】

以下の項目は環境負荷が大きい為、ユーティリティ削減検討項目として取り組みます。

- ・電気使用原単位
- ・ガス使用原単位
- ・給水量原単位
- ・排水量原単位

以下の項目は以下の理由でEAガイドライン (P.25～26) に記される通り、ユーティリティ管理・維持項目とします。

・汚泥排出量原単位

弊社より発生する汚泥は、製造工程において使用される濾過助剤(珪藻土)に由来します。これらの使用量は品種毎に定められていることから、汚泥排出量の抑制に難点があります。発生した汚泥は肥料として100%リサイクルされますので、適切な管理を徹底いたします。

・化学物質量

使用量が少なく、環境による負荷が低いので、保管管理を徹底いたします。

・ゴミ資源化率

高い数値で維持されており、この水準の維持に努めます。

・グリーン購入

弊社のグリーン購入は主に事務用品が該当しますが、資材購入の際に可能な範囲で購入を推進し、維持・管理を徹底いたします。

【具体的な環境活動】

ユーティリティ削減検討項目

- ① 濃縮機洗浄改善
- ② 濃縮ドレンの雨水化と有効利用促進

ユーティリティ管理・維持項目

定期的に数値をモニタリングし、数値に異常が確認された場合、原因を特定し改善を行います。

環境関連法規等の順守状況

環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

順守状況確認 2018年4月1日

法律名称	当社への適用内容	対象設備、補足内容等	許可届出報告の有無	順守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) 及び関連する条例	流出、地下浸透、悪臭の発生防止 保管場所におけるねずみの生息、蚊、はえその他の害虫の発生防止			○
	産業廃棄物保管表示の設置			○
	産業廃棄物の運搬、処分の委託			○
	産業廃棄物管理票(マニフェスト)交付等状況報告書の提出(県知事宛、毎年6/30まで)		○	○
	産業廃棄物運搬、処分の契約、契約書の保存 (契約終了から5年間)			○
	廃棄物の運搬又は処分を委託する場合には、発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の行程における処理が適正に行われるために必要な処置を講ずる			○
	マニフェストの運用・保管 マニフェストの管理(次年度6/30までに報告)		○	○
静岡県産業廃棄物の適正処理に関する条例	産業廃棄物が運搬または処分されている施設の状況やその他事項を 実地確認する(1回/年以上)。			○
騒音規制法	機器の異音確認	コンプレッサ		○
	騒音測定(2回/年) 特定施設の設置・変更・廃止の届出 代表者・事業者の名前等の変更の届出(30日以内)		○ (変更時)	該当なし (能力変更なし)
振動規制法	機器の稼働状況(異音がないか等)の確認			○
水質汚濁防止法	特定施設の設置・変更・廃止の届出 代表者・事業者の名前等の変更の届出(30日以内)	コンプレッサ	○ (変更時)	該当なし (能力変更なし)
	特定施設の設置・構造の変更の事前届出 届出受理後60日以内の設置等の禁止		○ (変更時)	該当なし
	特定施設の破損事故で、有害物質の公共用水域への排出、地下浸透のおそれがある場合の届出		○	該当なし
浄化槽法	浄化槽の設置・変更の届出	浄化槽	○(変更時)	該当なし
	新設または構造・規模変更時の水質検査			該当なし
	1回/年の保守点検			○
	1回/年の清掃			○
	浄化槽管理者の変更届(30日以内) 1回/年の水質に関する定期検査		○(変更時)	該当なし
毒物及び劇物取締法	盗難防止の措置 飛散、漏れ、流れだし、地下浸透の防止			○
	貯蔵場所に「劇物」の文字を表示			○
	事故時の保健所、警察、消防署への届出		○	該当なし
労働安全衛生法	小型ボイラー事故発生時の所轄労働基準監督署長への報告	ボイラー	○	該当なし
	「小型ボイラー設置報告書」の届出		○	該当なし
計量法	定期検査(1回/2年)	秤(製造部使用)		○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	特定製品を廃棄する場合の適切な措置(フロン類が適切かつ確実に回収されているか等)	コンプレッサ、エアコン		○
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の設置・変更・廃止の届出 代表者・事業者の名前等の変更の届出(30日以内)	ボイラー	○ (変更時)	該当なし
	ばい煙発生施設の設置・構造等の変更の事前届出 届出受理後60日以内の設置等の禁止		○ (変更時)	該当なし
	ばい煙又はばい煙濃度測定と記録			○
	ばい煙発生施設の破損事故等で、ばい煙が多量に大気中に排出された場合の通報			該当なし
消防法 (焼津市火災予防条例)	指定数量(400L)の5分の1以上指定数量未満の危険物の貯蔵及び取り扱いの基準	親会社貯蔵庫 スペースを間借り	親会社届出	確認済み
食品リサイクル法	食品廃棄物などの再生利用(発生抑制、再生利用、減量)の促進 年間の食品廃棄物などの発生量が100t以上の食品事業者の定期報告		○ (発生時)	該当なし

代表者による評価と見直し

マネジメントレビュー実施日:2018/5/23

◎インプット

見直し項目	見直し報告事項	経営者指示事項								
1 法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項の順守の評価の結果	法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項は順守されていた。									
2 苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション	苦情は特に無し。									
3 当社の環境パフォーマンス	環境活動レポートを年1回作成した(当社ホームページの環境レポート更新)(2017/6/30)。									
4 目的及び目標を達成している程度	<p>【目標原単位に対する評価】</p> <p>使用量削減の実行に向け現状把握やデータ採取を主として行ってきたため、当初の見込みとしては、各使用量が16年度実績とほぼ同等になると考えられた。</p> <p>電気・ガスについては、年度目標値を達成しており、昨年度実績からも数値を10%前後低く抑えられている。こうした削減には、原料回収方法の改善による初期Brixの増加、1次濃縮品の予熱による濃縮効率化といった上期の取り組みが寄与。</p> <p>一方で、給排水は下期において増加傾向にあり、本年度実績は目標値や昨年度実績を上回った。一因として、下期に発生した濃縮機トラブルおよびその試運転による給排水増加が考えられた。濃縮機稼働時間および稼働回数、生産比率についても調査したがいずれも原因ではなかったため調査継続中(→18年4月事務局会補助資料参照)。</p> <table border="0"> <tr> <td>電気使用量原単位</td> <td>10.0% 減少 (対目標数値)、昨年度比 11.6% 減少</td> </tr> <tr> <td>ガス使用量原単位</td> <td>6.5% 減少 (対目標数値)、昨年度比 8.1% 減少</td> </tr> <tr> <td>給水量原単位</td> <td>3.5% 増加 (対目標数値)、昨年度比 1.7% 増加</td> </tr> <tr> <td>排水量原単位</td> <td>4.8% 増加 (対目標数値)、昨年度比 3.0% 増加</td> </tr> </table>	電気使用量原単位	10.0% 減少 (対目標数値)、昨年度比 11.6% 減少	ガス使用量原単位	6.5% 減少 (対目標数値)、昨年度比 8.1% 減少	給水量原単位	3.5% 増加 (対目標数値)、昨年度比 1.7% 増加	排水量原単位	4.8% 増加 (対目標数値)、昨年度比 3.0% 増加	
電気使用量原単位	10.0% 減少 (対目標数値)、昨年度比 11.6% 減少									
ガス使用量原単位	6.5% 減少 (対目標数値)、昨年度比 8.1% 減少									
給水量原単位	3.5% 増加 (対目標数値)、昨年度比 1.7% 増加									
排水量原単位	4.8% 増加 (対目標数値)、昨年度比 3.0% 増加									
5 是正処置及び予防処置の状況	<p>苦情、要望等はなし。</p> <p>給排水量の増加に関しては、水漏れやメーター不具合等の可能性も見て原因調査を継続する。原因が特定されてから対象箇所の改善を行い、社員への意識付けやモニタリング強化のため社内共有し、新たな体制を盛り込みながら運用を開始する。2017年 審査時の指導事項(マネジメントレビュー付記、産廃業者査察状況等)については17年度環境レポートで対応予定。</p>									
6 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ	<p>洗浄強化導入後の16年度実績に基づき、17年度目標を設定した。</p> <p>原単位算出について、生産量に仕掛り量を含めない方式に統一した。</p> <p>排水として流れていた2tタンク冷却水を雨水化した。</p> <p>濃縮缶の洗浄改善、濃縮ドレン有効利用・シール水雨水化の検討(いずれも現在調査中)</p> <p>給水量のばらつき抑制のため弁の開度を制限した。</p> <p>トラブルに伴い濃縮機を更新した。</p>									
7 環境側面に関係した法的及びその他の要求事項の進展を含む、変化している周囲の状況	メールマガジン(環境省、アマタグループ)の閲覧により、環境に関わる法改正について情報を収集し、内容を確認した。									
8 改善のための提案	特になし。									
9 その他、社長が指示する事項及び管理責任者が必要と判断した事項	<p>①2tタンク冷却水の雨水化によるクーティリティー削減効果を定量化し次年度以降に活かす。</p> <p>②年度初めに実施したFP濾布交換により汚泥発生量削減効果を得たため交換基準の頻度設定に反映させる。</p> <p>③17年下期の給排水量増加の原因を明確化する。</p>									

◎アウトプット

環境方針変更の必要性	なし
環境目的変更の必要性	なし(親会社(味の素グループ)の環境活動と数値目標が乖離することのないように管理すること)
その他システム要素変更の必要性	なし
総合的な指示事項	<p>・モニタリングするも異常検知が遅れている。異常をすぐに見える化する工夫を入れ込むこと。</p> <p>・周辺エリアの環境マインドを醸成するための取り組みを探索して恒例行事にできるようなものを選定開始してみること。</p> <p>→18年度実施予定: 周辺の清掃作業(半期に1回)、加工センター排水設備見学</p>